

第9回技術研修会(現地研修会:広陵町)を開催

□2019年11月22日(金)13時30分～16時、奈良県および広陵町のご協力のもと、供用中の桜橋(さくらばし)を対象に、第9回技術研修会を開催しました。

□奈良県コンクリート診断士会からは21名(会員20名、一般1名)、奈良県道路メンテナンス会議からは27名(近畿地方整備局奈良国道事務所、奈良県、県内土木事務所および6市3町3村)、奈良県森林整備課・農林振興事務所から2名、合計50名の参加があり、第1部を桜橋での現地研修、第2部を流域下水道センターの浄化センター会議室での座学研修として、2部構成で実施しました。

□桜橋は、2016年度の近接目視点検の結果、判定区Ⅲ(早期措置段階)と判定されたものです。第1部では広陵町から点検結果について概要説明を受けた後、近接目視点検の着眼点、想定される変状原因および診断時の留意点等について研修や質疑応答を行いました。第2部では桜橋の主な変状原因が、アルカリ骨材反応(ASR)によるものと考えられることから、ASRに着目した維持修繕計画を策定するに当たっての留意点、ASRによる鉄道構造物の変状事例と補修事例について、研修や意見交換を行いました。

□奈良県や関係市町村のご協力を得て供用中の橋梁を対象に行う現地研修は、昨年度に引き続いて3回目の開催となりました。これは、奈良県コンクリート診断士会の設立目的である会員の技術力向上や地域貢献に大いに資するもので、以降も継続して開催できるように連携を深めていく予定です。



▲ 広陵町からの近接目視点検結果説明



▲ 桜橋での現地技術研修(第1部・桁下面)



▲ 桜橋での現地技術研修(第1部・橋面)



▲ 技術研修(第2部)